

図書館ニュース

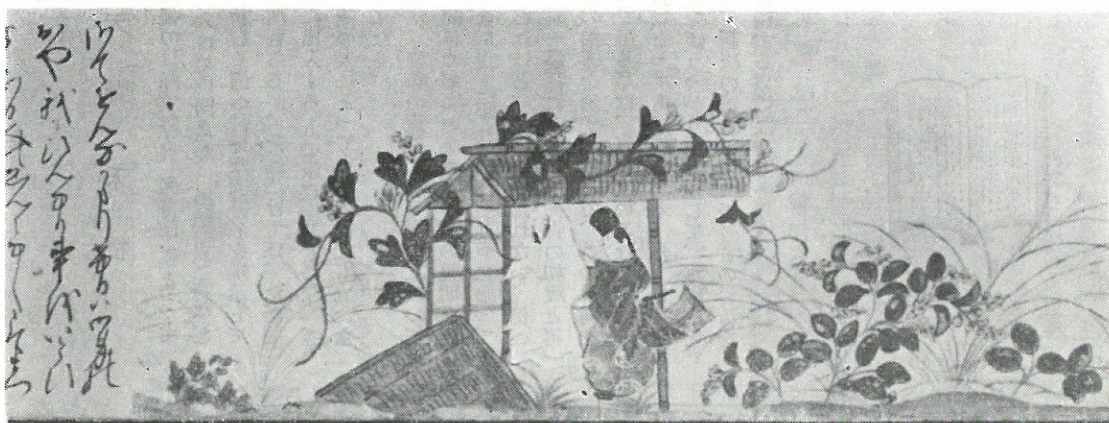
創刊号

1966

41・6・1・発行

編集人 河村 道也
発行人

発行所 東京都文京区原町17 東洋大学附属図書館 TEL(946)5231



創刊のことば

図書館長 園田 義道

図書館管理になんら経験のない私が、本学図書館長に任せられてから、早くも三年の歳月が流れた。学校の教員をやっていたれば誰でも書物になじむのは当然中の当然で、図書館のことなら、と漠然とした自信に似たものを感じてその職を引受けたのだったが、いざことに当たってみると、もの見事にそれはけし飛んでしまった。各種の会合に出席したり、多少その種の本を読んだり、館員の仕事をみたり、考え方をきいてみると、全部こと新しいのですっかり戸迷いしてしまった。雑然と体内に入ったものは未だ整理のつかないままで、解決すべき課題だけが結節点となつてごつごつつかえている。

痛切に感じていることの一つに、図書館の利用者と館自体との間にインター コミュニケーションが円滑に行なわれているかどうかということがある。どうも共に語り合う共通の広場が欠けているようである。教員や学生は図書館がどういう仕組になっているか、館員がどう考えているかが充分に分らない、図書館は利用者へのサービス専一心掛けているのであるが、相手方にはなかなかそれが通じないのである。また一方図書館育ちのものには案外に教員の気持が分っていない。一步をあやまれば独走の危険がある。語り合いの場が痛感されるわけである。こういう文書を出すことによって大学図書館の本質的な姿が漸次形成される運びとなれば望外の喜びである。

図書館ニューズに望む

矢野 禾 積

今度本学の『図書館ニューズ』が創刊される事になったのは、われわれ平素から「書物の虫」を以て任ずる者にとり、この上も無く有り難い事である。正直に言へば、この発刊は遅きに過ぎた嫌ひさへある。

われわれは、何か必要のある時にこそ図書館のカタログを繰って見るが、それも其時自分の求めてゐる書物が有るか無いかを確める事に止まり、他にどのやうな珍しい図書が有るか否か迄、調べる余裕が無い。従つて、宝の山に入りながら、空手で帰る場合が多いのを常とする。

東洋大学のやうな長い歴史を有する大学の図書館には、たとひ小規模で出版したにせよ、意外に珍重すべき文献が、書庫の一隅に、顧みられないままに埋もれてゐるのではあるまいか。而もこのやうな古い文献の価値は、その道の専門家ならではの解らないのが普通であらう。そこで、私は、今度『図書館ニューズ』が創刊されるのを機会に、それぞれの専門分野に亘つて、かうした文献の発見と紹介とに努めて貰ひたいと思ふ。

それと同時に、毎号掲載して貰ひたいのは、新しく購入したり寄贈されたりし

た図書の目録である。図書館によつては、入口の内側とか、出納所の側などに、新しく備へ付けた図書名を掲示してゐる所もあるが、それだけでは、ただ図書館に出入する人の眼に留まるに過ぎず、他の人にとっては何の役にも立たない事になる。

更に、特殊の意義の有る図書に就いては、簡単でもよいから、多少の説明を附して貰ふ事にすれば、研究者にとつては、どれほど有り難いか知れない。例へば、同一著者による同一書物の初版と再版との相違を示す事などで、この異同を弁へて居る事は、専攻家のみならず図書館員にとつても必要である。然もないと二者をばうっかり同一視して、重複物と考へ、新版の意義、従つて著者の労苦を無視する事になるであらう。

(東洋大学長)



大学の図書館資源と学位獲得数

鈴木 賢 祐

国立国会図書館の創設直後に、同館の技術顧問として再度渡来、同館への「勸告」では広く日本の館界にも影響を与えられた、あのダウンス博士注¹⁾が、最近、面白い調査(注¹⁾)を発表されている。それは、アメリカの大学図書館の資源の強度と、学位(博士)獲得数との間に、相関関係が存在するか否か、を決定するのを、主目的としたものであった。

調査対象は、一九五三—六二年の一〇年間に学位九三、七九九を付与した一八六大学。各大学について(1)付与学位数(三範疇に細分)、(2)蔵書数(3)一九六二年度の年間図書費額(図書・雑誌購入および製本費の合計)を洗い出し、(1)の数字の大きい順に各大学を著録する。ここに抜萃した表は、原表の一位から二位までに、圏外の三例を追加したものである。「蔵書数」は万単位で切り、「図書費」は非単位のを円単位に換算、さらに万位で切つてある。圏外側の一五位は、米大学・蔵書数ベスト・テンの一であるため、第三六位・四九位は、図書館学の博士研究プログラムをもっている七大学(*印)残りの二つであるためである(社会学部教授)

表(抜萃) (1953—62年)

大学	学位付与数 (博士)	蔵書数 (万冊)	図書費 (万円)
1) Columbia*	5,644	302	20,116
2) California* (all campuses)	5,024	527	170,676
3) Wisconsin	3,733	152	19,614
4) Illinois*	3,502	352	29,174
5) Harvard	3,192	693	36,856
6) Michigan*	2,981	304	22,590
7) N. Y. Univ.	2,870	115	7,718
8) Ohio State	2,559	152	15,256
9) Chicago*	2,363	221	16,459
10) Minnesota	2,353	207	21,718
11) Cornell	2,202	227	24,631
12) Yale	2,141	457	28,141
15) Stanford	1,938	228	15,753
36) Rutgers*	779	101	11,149
49) Western Reserve*	476	77	4,593

(注1) Robert B. Downs, "Doctoral Programs and Library resources," *College & Research Libraries* 26 (no. 2); 123-29, 141, March 1966.
**Dean, Library Administration, Univ. of Illinois.

◇ 図書館規則改正

望 月 武 夫

昭和三十二年、また大学の規模が小さい時代に作られた図書館規則では、今日の総合大学に発展した本学の図書館運営に支障が生じたので、その矛盾点を是正すべく、この三月から長時間かけ図書館運営委員会が再三検討し修正案を作成して大学協議員会に附議したところ、此に改正規則の成立を見るに至った。但し

図書館の職員構成や分掌については、他の規則に抵触する関係上一時的に保留になり、又細則についても今後できるだけ早く検討し改善してゆく予定になっております。

この改正の目的は図書館の現状に合わせることに主眼をおき図書館の機能を有機的に運営管理できる様にすると同時に利用者の便利をも図ることに重点をおいて検討をしました。

改正された要旨は次の通りです。

一、分館制度を設け、分館長をおき、分館規則を別に作る事ができる様にした。

図書館の動き

一、本館に副館長

をおくことができる組織体を作った。

一、図書館運営委員会の性格を明確にし従来各学部からの委員三名のところを一名とし、任期を二年とした。

一、図書選択委員会を新たに作り、委員は各学部二名（大学院は各一名）任期は二年とし、月一回委員会を開き一貫した図書購入の選択を図る様にした。

一、館外貸出図書（逐刊を除く）の冊数及び期間は、教職員にあっては従来の五冊二ヶ月間を十五冊三ヶ月間とした。

一、同時閲覧についても従来の三冊から五冊以内とし利用者の便を図った。

以上が改正の主な点であります。詳細については、後日印刷して配布される規程をご覧下さい。

最後に本規則作成についてご尽力下さいました、旧運営委員の先生方のお骨折りを感謝申し上げます。 一以上

(図書課長)

◇ 図書館建設準備委員会

いまの図書館は昭和四年に建設されたもので、文学部と旧制専門部で十萬冊の図書の収容を予定されたものであった。爾来三十有余年、白山だけでも一万人を超える学生と十七萬冊を超える蔵書を持つ現在、全く不十分極まる施設となつた。

そこで、本学創立八十周年の記念事業の一環として新図書館建設のため設けられたのが、本委員会である。

委員会は図書館長を委員長として教務部長、各学部からの選出教授、総務部長、経理部長など教学及び事務の有力な人物を網羅し、ここでの決定が直ちに建築施工の最終案となることを企画して組織されている。

第一回は昨年十月十五日、第二回は同じく十二月八日それぞれ招集され、主として自由討議で、図書館建設の諸問題が提出された。第三回と第四回は本年二月三日、三月四日に招集され第二回委員会での決議にもとづき、立教大学、日本女子大学（二月）、国際キリスト大学、明治大学和泉分館（三月）、を实地見学して委員の図書館建築への認識を深めるのに役立つことができた。第五回は四月二十七日に開かれたが、このときは図書館各施設の必要坪数算定表が図書館から提出され、検討を加えた。

今後は設計図の作成から、備品等につき具体的な諸項に亘って討議を進め理事長に答申することになっている。(Y 記)

◇ 分館だより

二月一日から附属図書館工学部分室が分館に昇格した。最近急激な発展をとげる東洋大学のキャンパスの中では、さしたるニーズではないかもしれないが、看板を新しく書きかえてみれば、関係者にとってやはりうれしい。これも園田館長・大越工学部長の年余にわたる努力と大学当局の理解のためであろう。

現在のスタッフは分館長以下六名、三名の美人司書を含めて、平均年齢二十七才を誇る若さと淑やかさがメリッとの図書館である。

目下、A号館の一・二階に仮住まいの身であるが、工学部十周年を記念してスマートな新図書館建設の構想もあると

開館六年目を迎えた現在の蔵書数二万三千冊、和洋雑誌四百五十種、続々入庫する図書を管理し、工学部の研究、教育の知的センターとして奉仕するために、一刻も早く理想的な新館の建設と館員の増強が望まれている。

分館長 平野 耿

(工学部助教授)

鑑賞の手引き

本学所蔵の絵巻として最も古いものであり、また松姫物語と題する唯一の写本で、本学の貴重書である。本書の題材は、室町時代に婦女子の読物として書かれた通俗的な物語草子の類で、物語絵を伴っているから絵巻物という。物語の内容は、主人公が都五条に住む中納言しげただの息子の中將で、女は山科の里の左衛門の尉の娘松姫である。二人は文のやりとりから恋仲となるが、中將の親は松姫の家が貧乏だというので許さない、息子にたびたび教訓する

松姫物語

(表紙絵解説)

てられたことを物語り、姿を消してしまふ。夜が明けると、男はされ頭べに枕を並べていた。さてはこの草むらで殺されたのかと悲しみの余り、これを善知識として出家し、白骨を頸にかけて高野山に上り、奥の院に納めて順礼して歩き、はては小車に乗って遊行したので、人は彼を車僧という。この題材は謡曲車僧(世阿弥作)を物語化した悲恋による発心談であり、稚拙な大和絵十五段を詞と交互に配して、長さ十三米ほどの絵巻物としたものである。絵は大和絵の盛んな平安末や鎌倉時代の美麗さはなく、鄙びた感じだが、形式に捉われない自由さや、新

蔵書の中から

著者(一六一〇—一六九五)は、中国浙江省余姚県の人で、明末東林党の黄尊素の長男である。ほかには、明夷待訪録、今水経などの著述があり明の末期から清初にかけての著名な学者である。明儒学案は、その名の示す通り明代の儒者を主題とした伝記集であり、清末の立憲君主制論者梁啓超は中国最初の学術史として高く評価している。もっとも晩年の著述であり、完全な刻本はまだないという。そこで、趙九成氏の明儒学案的版本

明儒学案

(黄宗羲著)

請求記号 125.5:KS道光一(一八二二) 莫晋、莫階序刊、六十二卷、二十四册、半葉十二行、行二十四字、黒口本、左右雙辺、これが莫氏刻本である。請求記号 125.5:KS2 六十二卷、三十二册、半葉九行、行二十字、黒口本、左右雙辺、これは、扉を欠き、刊等を確めていないが、趙氏という光緒十四年(一八八八)刊の南昌刻本に相当するものと思われる。哲学堂文庫、請求記号、は・七・三三 光緒八(一八八二) 馮全璋跋刊、六十二卷、二十册、半葉十一行、行二十字、黒口本、四周單辺。これが、鄭氏(鄭性)

けれども、親のいさめを聞こうとはしない。ついに二人は契りを結ぶ。ある時姫は年ごろ宿願のことがあって清水寺へ参籠する。ところがこのひまを見て、中將の親は人をして姫を亡き者にしてしまふ。中將はそれとはつゆ知らず、姫を探し求めて野をさまよひ山を越えて尋ね歩き、そのいたましい姿に親も後悔するが、かいが無い。そうして三年後の秋の末、中將はようやく姫に似た人を見つける。女は男を茅屋に伴い、殺されてこの野に捨

ほん

を茅屋に伴い、殺されてこの野に捨

味がある。奥に大永六年(一五二六)八月二五日尋貞とあるのは、この写本の書写年代である。表紙図版は死んだ松姫がこの世に姿を現わし、中將を茅屋へ案内して行くところ。本書は元本学国文学科主任教授島津博士の旧蔵書の一である。

文学部教授

吉田 幸一

刻

本方氏刻本 莫氏刻本 南昌刻本 賈氏刻本 四庫全書本
 許氏刻本 鄭氏刻本 馮氏刻本
 鈔(写)本 未定稿 明儒学案秘書
 一已定稿
 このうち許氏(許言礼)刻本、万氏(万言)刻本は伝っていないといわれ

(大公報、民国二五・三・九圖書副刊一二期)によって、本館所蔵本三種についてみてみたい。同氏によるとこの圖書の系統は次のようなものになるという。刻本(二老閣本)を修補印刷した、再刻二老閣本と言われる。馮氏刻本である。これら三種は系統的に似通った版本ばかりであるが、この外に無窮会(新宿区)の図書館に全く系統を異にする賈氏刻本を所蔵していることを申添えておきたい。

図書館職員

山内 四郎

新着本紹介

本学の教授であつた坂崎侃先生（哲学科）が苦心して集められた蔵書約六〇〇〇冊、雑誌二〇点約二〇〇〇冊がこのほど図書館で一括し購入されました。おもに人文科学関係の本であります。広い範囲で洋の東西をとわず各分野に渡って収書された中には専門的な葉の本までも含まれており、大学の資料は一段と豊富に成りました。又図書館が一人の先生の、これだけの冊数の蔵書を一括

坂崎侃先生蔵書購入さる

図書館職員
梅沢璋汎

その印を作り、長く先生の御意志と先生の研究の道程を示すべく、本学の蔵書印と共に一点一点「坂崎文庫」として集めました。長い間かかって苦心して集められた本は速く先生方や学生に利用できるように、既に六〇〇〇冊の内1/6の整理を終り、将来ゆるされるならば冊子目錄を作りたい希望を持っております。

ほ

ん

ことと、各方面の御賛助があつた事でありませう。図書館では坂崎文庫と云う名称のもとに

して購入した事は近年にはない事でありませう。雑誌についても古い刊号から集められてゐるものもあり、現在図書館にある雑誌の欠号等を合せると、一貫したものが出来る事になります。この購入につきましては先生の御遺族は勿論のこと先生の御弟子さんである立教大学の井上幸治先生を始め、東京教育大学の前田先生その他諸先生の大変な御骨折があつた

坂崎先生略歴	東京帝国大学哲学科卒業
大正9・9	東洋大学教授(哲学)
大正10・4	大正12・3 松山高等学校教授(ドイツ語)
大正12・4	昭和5・5 浦和高等学校教授(哲学・倫理・ドイツ語)
昭和5・5	昭和7・7 東京文理大助教授兼東京高等師範講師
昭和6・4	昭和12・3 東洋大学教授(哲学)
昭和25・7	昭和29・3 東京文理科大教授後東京教育大学教授(哲学科)
昭和29・4	千葉大学文理学部教授(哲学科)
昭和12・4	海外旅行
昭和12・4	昭和14・6 哲学研究の為文部省在外学生として欧米諸国に滞在且つ諸科学及科学史を研究
昭和39・3	願に依り職を解く
昭和39・4	文学部兼任講師

本を見たい時

” 図書館を皆様の書齋に！ ” というのが私達のモットーです。あいにくタコノ足で、設備も悪いのですが、館外貸出しも致しております。どうぞおおいで下さい。複写の設備も御座居ますし、不明な資料については、係が御相談にも応じます。

第二閲覧室は、四号館の二階に、その隣りが複写室になって居ります。その外の部屋は、館長室も含めて、図書館の内に御座居ます。教職員の皆様へは、むこう三ヶ月、一度に十五冊までの借出しが認められています。

(M・M)

利用者案内

- 見たい本 在る場所
- ☆一般教養・文学 第二閲覧室
- ☆辞書・本の目録 参考室
- ☆新刊の雑誌類 雑誌室
- ☆専門書・雑誌旧号 第一閲覧室

図書館に関する複写サービスには、大きく分けて二通りあります。その一は図書館所蔵(又は利用者所蔵)の図書をマイクロ複製化し、保管すると同時に閲覧に供することです。(貴重書を例にとると、原本保護、入手難の権威ある図書を複製すること)

一、エレファックス(電子複写機) 電子によって原稿が複製されます。一部のみならず、輪転機を用いて、大量印刷できる装置で、図書にかぎらず、印刷されたもの全てに利用できます。

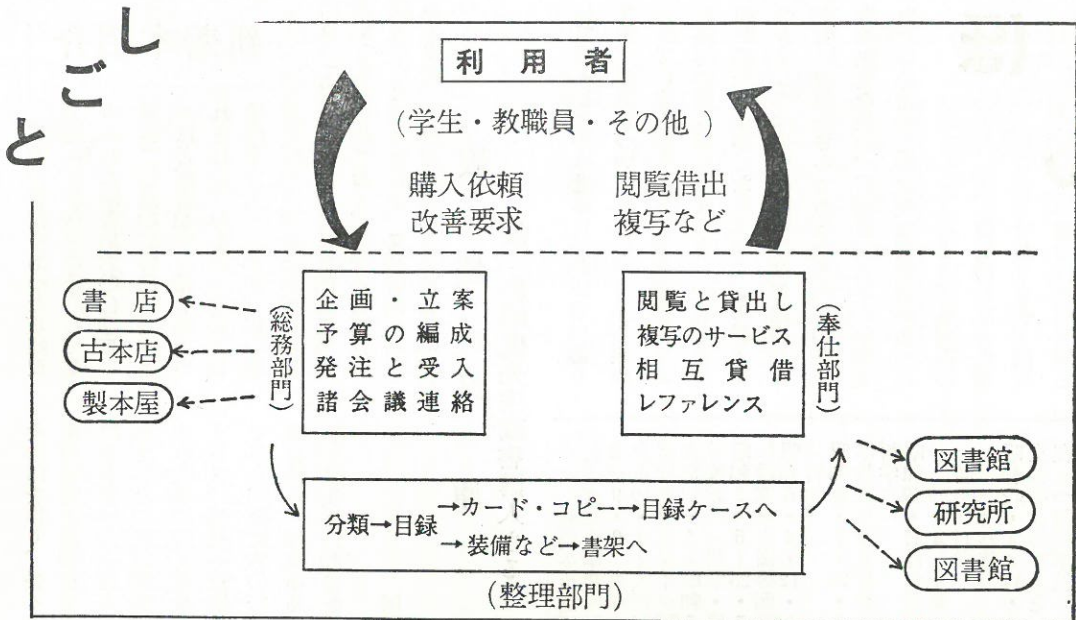
二、マイクロフィルム 特殊カメラによって撮影するもので、資料をフィルムに納め、永く保存するのに適しています。フィルムから直接コピーする、又そのまま投影して読む設備もあります。

複写サービス

その二は研究者(あるいは研究機関)の求めに応じて、図書館又は個人所蔵図書を複製・提供することです。本学図書館では種々の事情から、前者については実現するにいたっていませんが、教職員、学生の求めに答えられるようサービスにつとめております。以下簡単に設備された機械を紹介いたします。

以上利用者の必要性に応じて、いづれかの、設備を用いるわけですが、図書館では利用者サービスの一環として、この装置を用いて、増加目録を作成配布することになっております。したがって、場合によっては、複写注文が希望期日を多少遅れることもあります。

以上 (K記)



「受入から配列まで」という言葉があります。そのまま本のタイトルにもなっていて、図書館の基本的な実務の流れを示すものです。しかし、これは本を整理・整頓するだけの仕事の流れて、この外にも利用される方々と結びついた、いくつかの仕事が平行し、交錯して複雑に流れていきます。『図書発注から到着まで』というルートもありますし、「借出しから返却まで」という分野もあるのです。おもな仕事は、この順に整理・総務・奉仕と呼ばれ、それぞれ図書館の基本的な柱とされています。総務の購入係では、書店との取引を通じて多くの仕事があり、奉仕もまた、相互貸借の係を通じて日本中の図書館とつながりを持っています。この広い本屋さんや図書館界との網の目の内で、私達は、東洋大学の学生、教職員の皆さんのために普段の研究と教育への奉仕体制を形づくっています。図書館がどのような役割を持つかということは、利用の架にゆずるとして、今日は大まかな一覧図を描いてみました。(第一回)

図書館職員
村田 基宏

分類分科会	5・18(水) 於女子美術大学図書館 △加藤厚著「比較分類法概論」第4章の検討	レファレンス分科会	5・20(金) 於立教大学図書館 △昭和41年度の方針の具体的検討 △各館で回答困難な参考質問の検討
目録分科会	5・20(金) 於慶応大学図書館 △S41年度研究テーマにつき 1. N. C. R. 1965年版の継続目録の検討 2. 目録の浅賀	書誌学分科会	5・20(金) 於学習院大学図書館 △書誌学用語の検討 △書誌学文献解説
		逐次刊行物分科会	5・24(火) 於成蹊大学図書館 △
		目録編成分科会	5・26(木) 於学習院大学図書館 △ N. C. R. 1965年版「第20章記入の配列」の検討

編集後記

図書館のことを、少しでもわかっていただくとうと、此の度、図書館ニュースを出しました。内容は、本の紹介、利用者案内、図書館の動き、仕事等です。僅か、三枚六頁のパンフレットですが、回を追うに従って、充実したものにして行きたいと思っております。今のところ三回発行の予定です。ご意見、ご希望等お聞かせ下されば幸いです。

なお、お忙しい中を、わざわざ原稿をお寄せ下さいました教職員の方々には、心からお礼申し上げます。

入館する方々へ

- 入館資格 1. 本学の教職員・学生・校友
2. その他、特に館長の許可したものと
- 開館日時 次の日を除き、毎日開館する。
1. 日曜・祝祭日・本学創立記念日
2. 夏季・冬季・学年末の各休暇中の一定期日
3. その他臨時に必要あるとき
- 開館時間 月一金9.00—21.30 土9.00—20.00